

[地球万華鏡 NZ、国旗変えよう運動 新デザインはオールブラックス風

25 April 2004

読売新聞本社 地域版(Japanese Language)

9

(c) 2004 Yomiuri Shimbun. All Rights Reserved.

◆植民地めたいで独自性なし、豪州国旗にソックリだし...

ニュージーランドで、国旗を変えようという草の根運動が広がった。青地に旧宗主国イギリスの国旗「ユニオンジャック」と南十字星を配した今の図柄は、国の独自性を表しておらず、しかも、お隣のオーストラリアの国旗と紛らわしいというのだ。(ウェリントンで、平井道子、写真)

黒地に白く染め抜かれた一枚の葉。今年二月に始まった運動のシンボル旗だ。新国旗の「最有力候補」として推すデザインでもある。ラグビーのナショナルチーム、オールブラックスのマークと同じく、ニュージーランド原生のシダ「シルバーファーン」をかたどっている。ウェリントンに住む運動の提唱者で、ニュージーランド証券取引所副会長を務める大企業家でもあるロイド・モリソン氏(46)は、「国旗はニュージーランド国民と、その将来を表したものでなければならぬ」と力説する。

ニュージーランドは一九四七年に英国から独立した。「今の国旗から読とれるのは、植民地としての生い立ち。国の自立や文化、決意を反映していない」とモリソン氏。世界で最も優れた国旗として日本とスイスを挙げ、「力強くシンプルだ。スイスは小国だが、スイス国旗を知らない人は少ない」と指摘する。

運動の主な舞台は、インターネット。国旗変更の必要性や手続きを解説、シルバーファーン旗の購入方法を紹介。歌手やスポーツ選手らが支持を寄せている。

国政に携わる政治家は巻き込まない。「政争の具になると、国民の心は離れる」(モリソン氏)と考えるからだ。現に、九月にuppriー首相(当時)が国旗変更を提議した際、国民が「選挙にいらんだ話題ぶり」とそっぽを向いた。

それでも、地方の首長らが運動に加わってくる。オークランドの西にあるワイタケレ市のボブ・ハーベイ市長は熱心な支持者だ。三月に市のホームページで世論調査を行ったところ、回答者の82%が変更を支持したという。ニュージーランド人の父と豪州人の母を持つ中年男性は、両国の旗は星の数や形、色も違うものの「区別できない人が多い。変えてもいい」と話す。

このところ、ニュージーランドが、英国や豪州と違道を歩み出れも続いている。ニュージーランドはイラク戦争に参加しなかった。豪州が難民を締め出す中、受け入れを広げた。控訴裁判所判決に不服の場合、英国の枢密院に上訴することになっていた司法制度を改革、七月からは自前の最高裁で取り扱うことになり、司法上の独立を果たす。

モリソン氏らは、二〇〇五年の総選挙をにらみ、国民投票の発議に必要な有権者の10%、二十七万人分の請願を集めようとしている。ただ、運動知らない人も多く、なじんだ国旗を変えることへの抵抗も強い。ワイタケレ市の主婦リアン・スミスさん(70)は運動の旗を見て、「嫌われ。黒は死を意味する色よ。この国はどれも黒ばかり。オールブラックスの淫靡だけで十分じゃない」とまゆをひそめた。

〈英連合王国のユニオンジャック〉

英連合王国のうち、現在国旗にユニオンジャックが入っているのは、豪州、ニュージーランド、フィジー、ツバル。カナダは一九六五年、赤地にユニオンジャックの旧国旗から赤いカエデの国旗に変えた。ツバルは九五年に国民公募で国旗を制定したが、英連合王国の一員であることを明確にするため、九七年にユニオンジャックのある旧国旗を復活させた。

図⇒NZ、豪州、英国の国旗

写真⇒シルバーファーンをかたどった旗を広げるロイド・モリソンさん(ウエリントンで)